

2018.4-6

資産運用状況
Quarterly Report

東京金属事業企業年金基金

用語の解説

- 修正総合利回り

資産の運用成果を評価する評価基準の一つで、簿価ベースの平均残高利回りである総合利回りの分母に前期末の評価損益および未収収益を加えることによってより時価に近い金額に修正した収益率。

計算式：修正総合利回り(%) = (実現収益 + 未収収益増減 + 評価損益増減) / (元本平均残高 + 前期末未収収益 + 前期末評価損益) × 100

- ベンチマーク

運用成果を評価する際に相対比較の対象となる基準指標のことをいい、市場の動きを代表する指標を用います。

国内債券・・・NOMURA-BPI(NOMURA Bond Performance Index)

野村證券金融工学研究センターが算出・公表する日本の公募債券流通市場全体の投資収益指数で、1983年(昭和58年)12月末を100として指数化したもの。

国内株式・・・TOPIX(東証株価指数：Tokyo Stock Price Index)配当込み

東京証券取引所が東証一部に上場する国内株の全銘柄の時価総額を基に算出する株価指数で、1968年(昭和43年)1月4日を100として算出したもの。

外国債券・・・FTSE世界国債インデックス（旧 Citi世界国債インデックス）

ロンドン証券取引所グループのFTSEラッセルが算出・公表する世界主要国の国債の投資収益指数で、1984年(昭和59年)12月末を100として算出したもの。

外国株式・・・MSCI-KOKUSAI

モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社(MSCI Inc)が算出・公表する国際的な株価指数で、日本を除く先進国22ヵ国の上場企業の株価指数で構成。

平成30年度第1四半期運用状況

平成30年度第1四半期の国内株式市場は、4月は、前半は米中輸入制限の応酬などから下げる場面もありましたが、中国の市場開放方針を受けて買いが優勢となり、その後も米金利上昇連動の円安から上昇しました。5月は、中旬にかけては米国株高、米金利上昇を背景として円安の進行により上昇しましたが、下旬には米朝会談中止の可能性の高まりや米金利・為替の反転を受け下落しました。6月は、前半は米国株高に連動し上昇しましたが、その後はトランプ政権の対中制裁関税発動表明・制裁追加検討で米国株が反転し、国内株も下落基調で推移しました。

一方、外国株式市場は、4月のNYダウは上旬は米中輸入制限の応酬、貿易戦争否定の要人発言などが交錯し方向感を欠いて推移し、その後も軟調な動きとなりました。5月は、月央にかけて上昇しましたが、下旬には南欧の政治リスクの高まりなどを背景に軟調に推移しました。6月は、上旬は中国の米製品輸入提案などを受け上昇しましたが、その後は、米政権の対中制裁関税の発動表明など、米中貿易戦争懸念の広がりから下落しました。

このような市場環境下において第1四半期末の運用実績は+0.84%となりました。

	平成29年度	平成30年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	0.08	0.84				0.84
収益額(千円)	244	6,520				6,520
期中元本平均残高(千円)	323,328	779,609				779,609
期末運用資産額(千円)	595,691	1,008,397				1,008,397

(注) 収益率は修正総合利回り

1. 平成30年度 第1四半期運用環境

【各市場の動き（4月～6月）】

国内債券：4月の10年国債利回りは概ね横ばいで推移しました。その後5月は米国国債につられて小幅上昇（債券価格は下落）した後、下旬には南欧を巡る政治リスクの高まり等から安全資産とされる国債への需要が高まり、利回りは0.03%に低下（債券価格は上昇）しました。6月は方向感なくほぼ横ばいとなりました。

国内株式：4月は米中を巡る貿易摩擦への懸念から一時下落する局面もありましたが、良好な米経済指標等を背景に円安が進行したことから上昇しました。5月は、前半は米長期金利の上昇を背景に円安が進んだことで上昇しましたが、その後、米朝首脳会談の中止発表や南欧の政治リスクの高まりから、円高が進み反転下落しました。6月は、中旬にかけては米国株連動で堅調に推移しましたが、下旬にかけては、米中の報復合戦による貿易摩擦の激化に伴う世界経済企業業績への懸念から下落基調で推移しました。

外国債券：米国10年国債利回りは、4月から5月にかけては一時3%の大台を突破するなど上昇基調で推移しましたが、5月下旬にかけては下落しました。6月はほぼ横ばいで推移しました。独10年利回りは、米国債につられる形で上昇基調で推移しましたが、5月下旬は南欧の政治リスクの高まりから買いが優勢となり利回りは低下し、その後は横ばいで推移しました。
為替は、ドル/円は円安でプラス寄与となりましたが、ユーロ/円は円高で推移し、マイナス寄与となりました。

外国株式：米国株式は、4月は米中輸入制限の応酬、貿易戦争否定の要人発言などの要因が交錯し、方向感を欠いて推移しました。5月は、中旬にかけては上昇しましたが、中旬以降は軟調に推移しました。6月は、下旬にかけて米中貿易摩擦等への警戒感などからNYダウが8日続落するなど下落基調で推移しました。独株式は、概ね米国株式に連動した値動きとなりました。
為替は、ドル/円はプラス寄与、ユーロ/円はマイナス寄与となりました。

◇参考指標

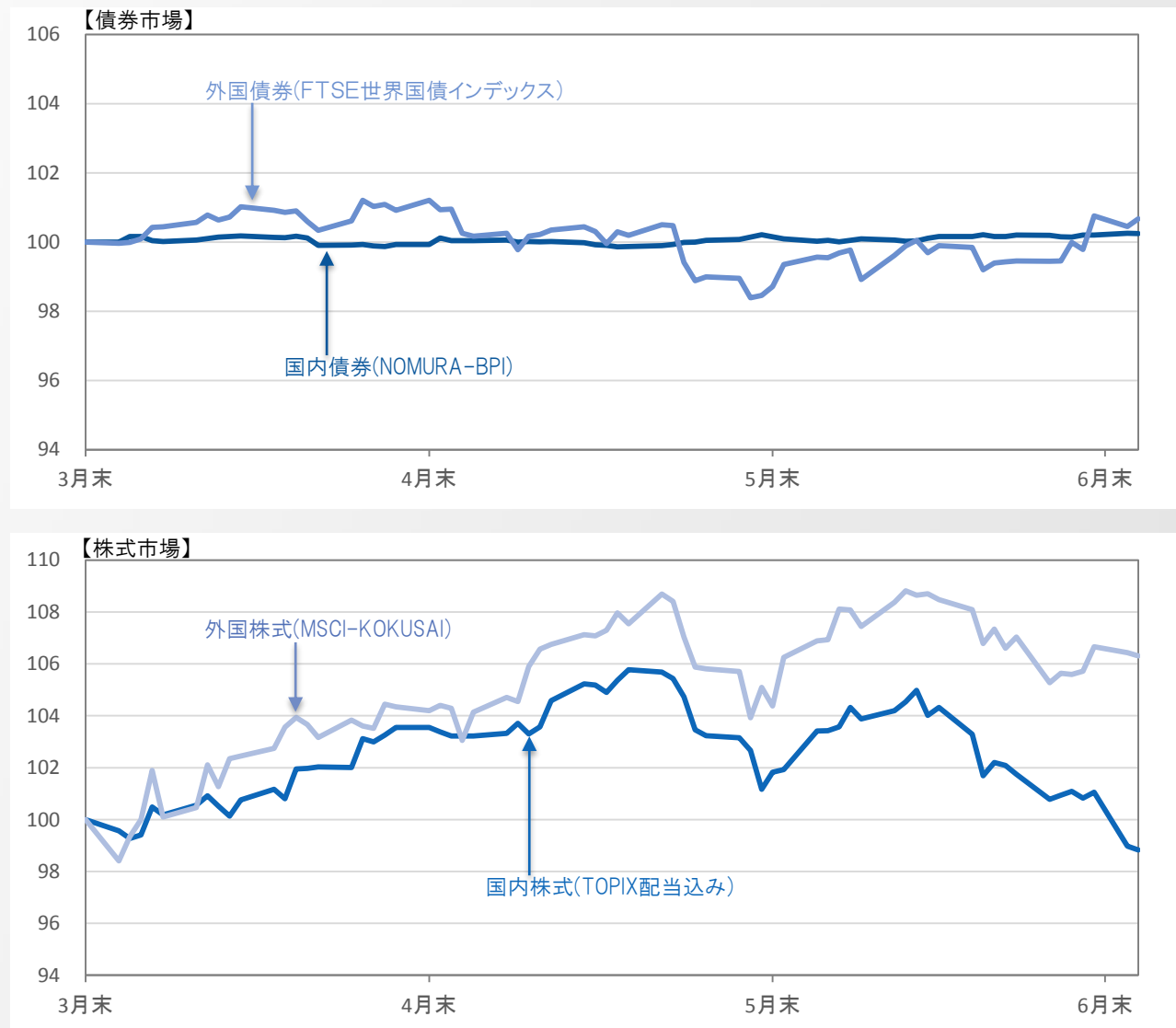
		H30年3月末	H30年4月末	H30年5月末	H30年6月末
国内債券	10年国債利回り (%)	0.05	0.05	0.03	0.03
	TOPIX配当込み (ポイント)	2,522.26	2,611.85	2,568.21	2,548.78
国内株式	日経平均株価 (円)	21,454.30	22,467.87	22,201.82	22,304.51
	米国10年国債利回り (%)	2.74	2.95	2.86	2.86
外国債券	ドイツ10年国債利回り (%)	0.50	0.56	0.34	0.30
	NYダウ (ドル)	24,103.11	24,163.15	24,415.84	24,271.41
外国株式	ドイツDAX (ポイント)	12,096.73	12,612.11	12,604.89	12,306.00
	上海総合指数 (ポイント)	3,168.90	3,082.23	3,095.47	2,847.42
為替	ドル/円 (円)	106.35	109.42	108.65	110.76
	ユーロ/円 (円)	130.79	132.21	126.82	129.32

◇ベンチマーク収益率

	平成30年4月～6月
国内債券 NOMURA-BPI	0.20 %
国内株式 TOPIX配当込み	1.05 %
外国債券 FTSE世界国債インデックス	0.76 %
外国株式 MSCI-KOKUSAI	6.65 %

(注) ベンチマーク収益率は、期中のキャッシュフローを考慮しない収益率

市場インデックスの推移(平成30年度 第1四半期) 3月末=100とした市場の動き



2. 資産クラス別収益率・収益額の状況

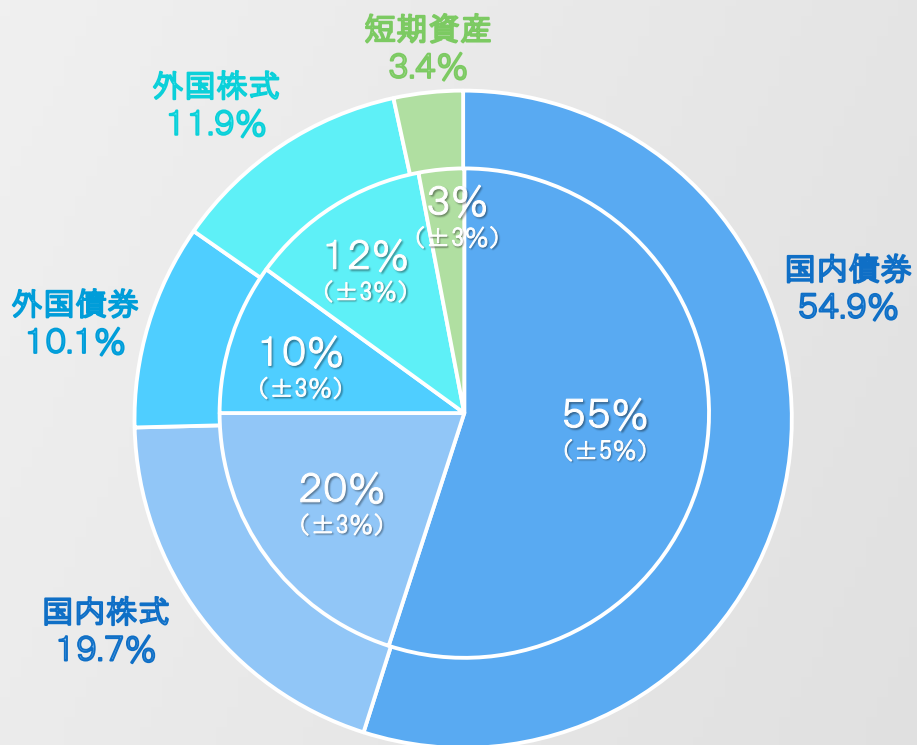
	平成29年度	平成30年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率 (%)	0.08	0.84				0.84
国内債券	0.75	0.16				0.16
国内株式	2.73	-0.20				-0.20
外国債券	-3.46	1.41				1.41
外国株式	-4.35	5.69				5.69
短期資産	-0.02	-0.01				-0.01

	平成29年度	平成30年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益額 (千円)	244	6,520				6,520
国内債券	1,270	677				677
国内株式	1,635	-297				-297
外国債券	-1,077	1,083				1,083
外国株式	-1,580	5,060				5,060
短期資産	-5	-4				-4

3. 運用資産額・構成割合

	資産額 (千円)	構成割合	基本ポートフォリオ	乖 離
国内債券	553,769	54.9%	55%(±5%)	−0.1%
国内債券	445,757	44.2%	44%	—
ヘッジ外債	108,012	10.7%	11%	—
国内株式	198,322	19.7%	20%(±3%)	−0.3%
外国債券	102,203	10.1%	10%(±3%)	+0.1%
外国株式	119,923	11.9%	12%(±3%)	−0.1%
短期資産	34,181	3.4%	3%(±3%)	+0.4%
合 計	1,008,397	100.0%	100.0%	—

(注) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。



内側：基本ポートフォリオ（カッコ内は乖離許容幅）
外側：平成30年6月29日時点